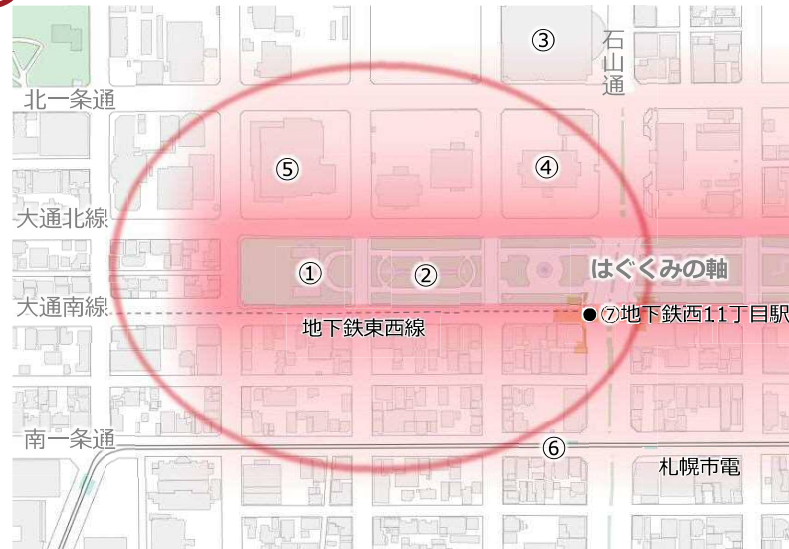


■ ゾーン周辺図

西Cゾーン



①札幌市資料館と前面に広がるサングガーデン



②大通公園のサングガーデン



③ロイトン札幌



④札幌高等裁判所



⑤教育文化会館



⑥市電 中央区役所前駅



⑦地下鉄出入口
(西11丁目駅)

上記画像全て <資料> 札幌市

■ ゾーン特性 ●●●：関連する将来像のキーワード

- 札幌市資料館、大通公園のサンクガーデンなど歴史的資源、景観資源がある。●**象徴性の継承** ●**資源を活かした景観**
- 多様な用途の建物が集積し、敷地規模も大小様々であり、多様な都市機能を受け止める土台が構築されている。●**創造と交流の好循環**
- 大通公園の南北においてもそれぞれ違う特色をもつ都市機能が集積している。●**創造と交流の好循環**
- 中央区役所などの公共施設や文化芸術施設のほか、集客交流施設が複数立地している。●**創造と交流の好循環**
- 知事公館や北海道立近代美術館などの緑のかたまりに近接している。
●**象徴性の継承** ●**連続的につながるみどり**
- 地下鉄駅、路面電車・バスの停留所が近接しており、交通利便性が高い。●**円滑な移動環境**

■ 第2次都心まちづくり計画上の位置づけ

- 「大通公園西周辺エリア」に位置づけられ、集客交流機能の強化や、文化芸術・歴史的資源の都市観光などへの活用を目指している。

■ 主な課題 ●●●：関連する将来像のキーワード

- 大規模な公有地が公園に面して立地しているが、駐車場利用などにより公園とまちの一体感が薄い。
●**創造と交流の好循環**
- 沿道建物の低層部は、にぎわい醸成に資する用途となっていない。●**魅力あるライフスタイル**
- 地域主体のまちづくりなど、一体感をもったまちづくりの動向が無い。●**協働によるまちづくり**
- 大通公園を中心とした区域は、景観計画重点区域、風致地区及び都市公園区域として、沿道建物の位置、規模及び外壁の色彩、屋外広告物並びに敷地内の緑化などの基準があるが、より良好な景観形成に向けた検討の余地がある。●**資源を活かした景観**
- 屋外広告物の掲出にあたっては、大通地区の特性を踏まえ、先行整備地区（札幌駅周辺地区など）との比較において、より抑制的な掲出とすることが望ましい。●**資源を活かした景観**
- 建物規模が大きく、業務・宿泊など多様な機能集積が見られるが、エネルギー利用の効率化に係る取組の方向がない。●**都市の脱炭素化**
- 北海道／札幌の重要な公共拠点施設が立地しており高い防災性が求められるが、エリアとしてのBCP対策はない。●**防災機能の強化**

強化の考え方

都心西側の回遊拠点を形成し
美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ

■強化の考え方

都心西側の回遊拠点を形成し
美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ

■想定される主な取組例 ※ゾーン毎に想定される主な取組の一覧は55ページ以降を参照



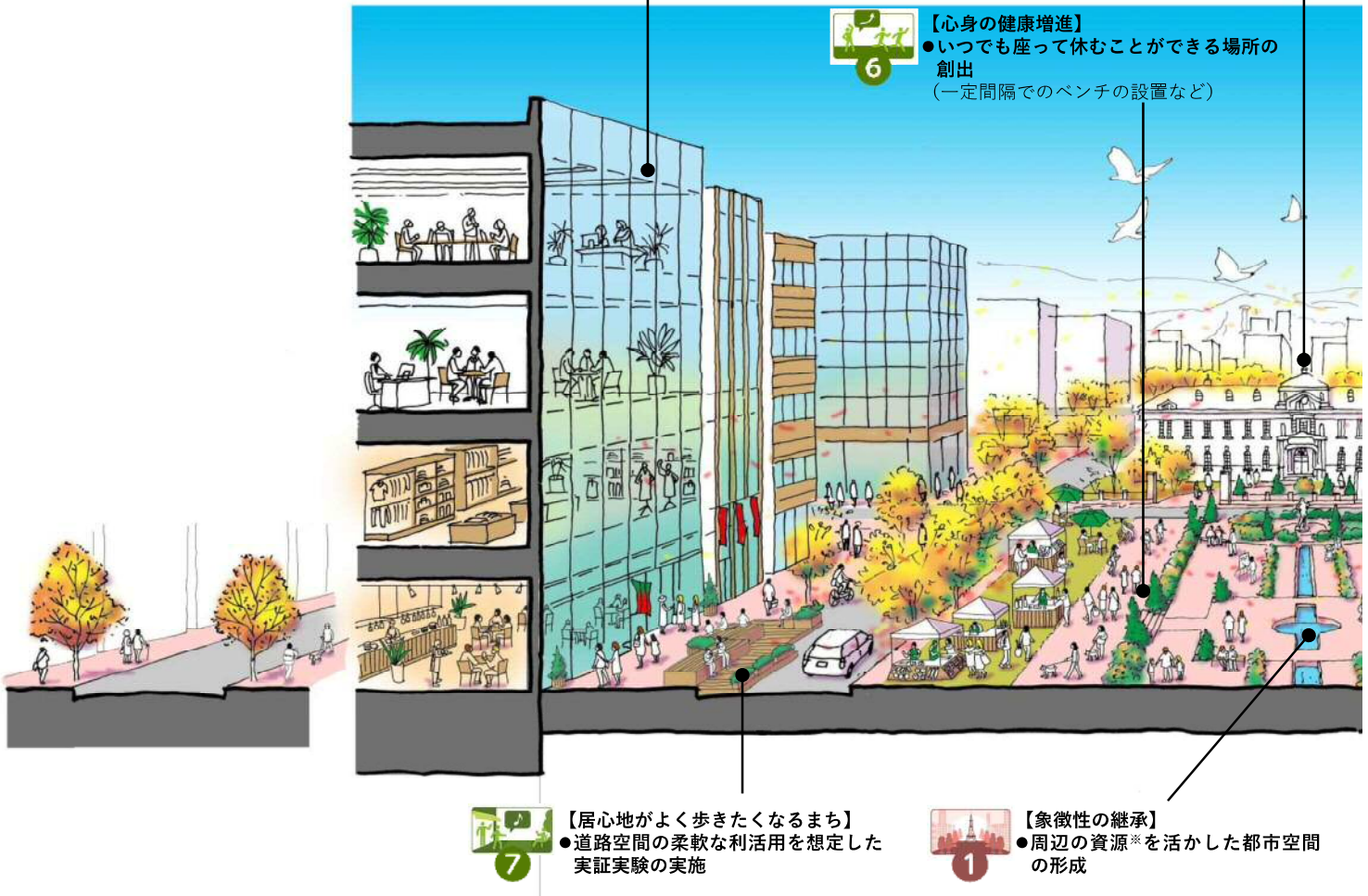
【資源を活かした景観】

- 街並みや歴史的資源などと調和した建物外観デザインの工夫
(札幌市資料館、大通公園のサンクガーデンなど)



【心身の健康増進】

- いつでも座って休むことができる場所の創出
(一定間隔でのベンチの設置など)



【居心地がよく歩きたくなるまち】

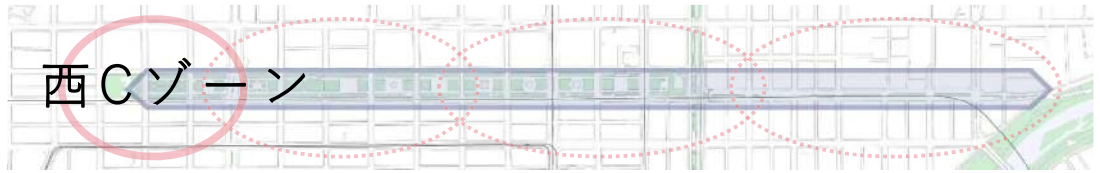
- 道路空間の柔軟な利活用を想定した実証実験の実施



【象徴性の継承】

- 周辺の資源※を活かした都市空間の形成

街区・道路・公園の一体感を



西Cゾーン



【連続的につながるみどり】

- みどりととの繋がりを創出するための中低層部の設えの工夫
- 大通と沿道との繋がりを強化する街路樹などのみどりの強化
- 一体感のあるみどりを創出する民間開発や公園などとの連携



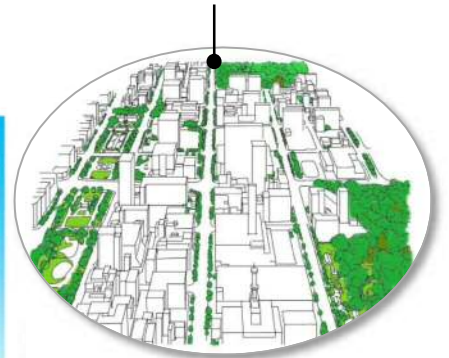
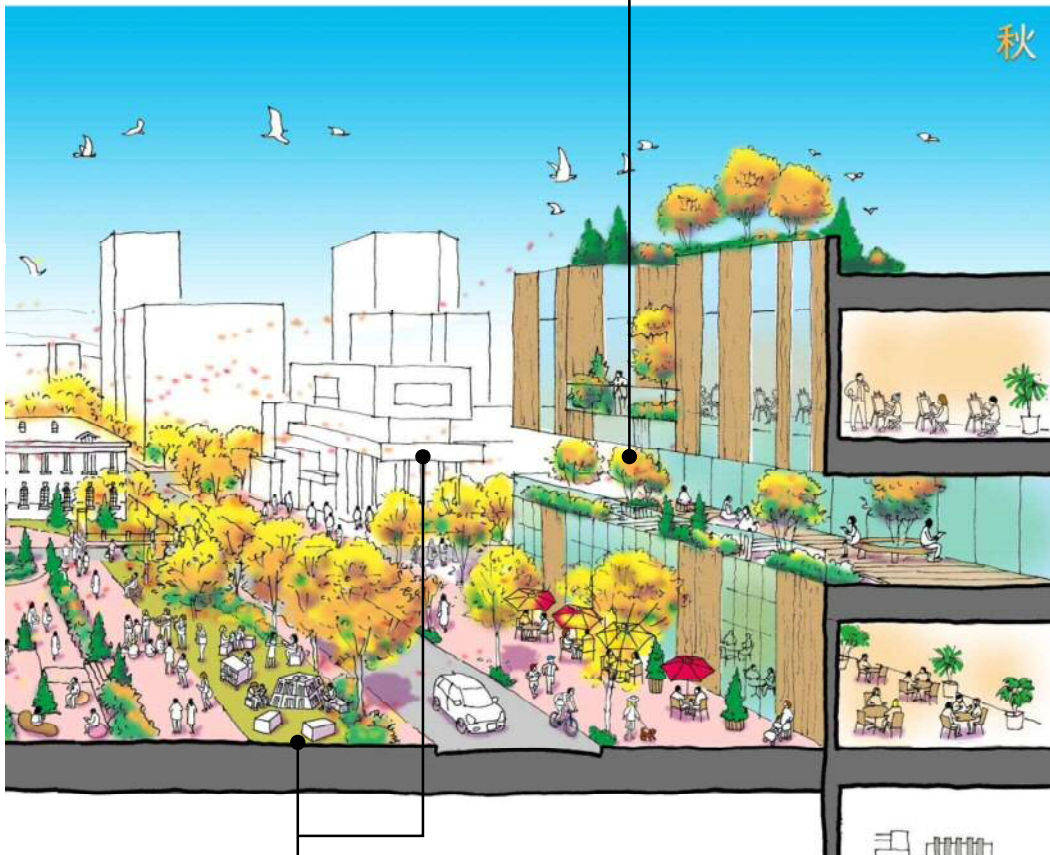
【連続的につながるみどり】

- 周辺の既存施設等※との繋がりを意識した道路緑化の強化や新たなみどりの創出



【創造と交流の好循環】

- 周辺の集客交流施設同士の機能的な連携
- 市有地の利活用

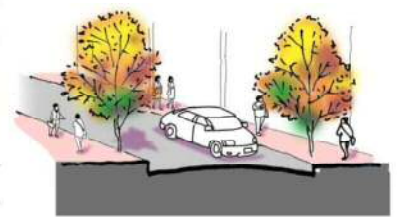


※北海道大学植物園などの大通公園周辺のみどり



【創造と交流の好循環】

- 既存施設※を活かした文化芸術活動の促進
- 周辺の集客交流施設同士の機能的な連携



※コージェネレーションシステム



【都市の脱炭素化】 【防災機能の強化】

- 大規模開発の機会を捉えた面的エネルギーネットワークの構築、拡充

感じられる空間の形成

■ ゾーン周辺図

東ゾーン



①大通東5丁目の青空駐車場



②中小規模の住宅・事務所ビル



③あそび公園



大通バスセンター

上記画像全て <資料>札幌市

■ ゾーン特性 ●●● : 関連する将来像のキーワード

- 地下鉄コンコースが大通東5丁目まで伸びている。●**象徴性の継承**
- 東4丁目通の整備により、地域内の南北の歩行環境の向上が図られる予定である。●**象徴性の継承**
- サッポロファクトリーなどの地域資源がある。●**象徴性の継承**
- 低未利用地が多く今後の土地利用転換が期待される。●**創造と交流の好循環**
- 創成川西側と比較して地価水準が低く、賃料負担力にとられない機能導入が可能である。
●**創造と交流の好循環**
- 共同住宅の建設や保育施設の整備が進み、都心居住の受け皿となっている。●**創造と交流の好循環**
- 民間団体や行政により、イベント開催や実証実験など、公共的空間を活用し、まちの魅力・活力を高めていく試みがなされている。●**協働によるまちづくり**
- 豊平川において、河川区域の利活用を目指した取組が進められている。●**協働によるまちづくり**
- 新函館北斗から新幹線のルートが延伸され、札幌駅が開業する予定である。●**円滑な移動環境**
- 都心エネルギープランで、小規模な建物を含めて都心にふさわしい先進的な取組により低炭素化を推進するエリアとして位置づけられている。●**都市の脱炭素化**
- 都心エネルギープランで、熱供給ネットワーク促進エリアとして、将来的に面的なエネルギーネットワークを構築するエリアとして位置づけられている。●**都市の脱炭素化**
- 中央小学校が基幹指定避難場所となっている。●**防災機能の強化**

■ 第2次都心まちづくり計画上の位置づけ

- 「創成東地区」に位置付けられ、都心の利便性を享受できるような職・住・遊近接の暮らしの場と、起業などにより地区の新たな活力を創造する取組の推進を目指している。

■ 主な課題 ●●● : 関連する将来像のキーワード

- 周辺の世帯数増加に伴い子供の人口も増加傾向にあるが、遊びに利用できるスペースが十分ではない。●**創造性**
- 駐車場の出入口が沿道に多数存在している。●**居心地がよく歩きたくなるまち**
- 近接する歴史的資源を活かすなど、景観的な視点からも方向性を位置づけることが望まれる。●**資源を活かした景観**
- 安全確保計画に定められている一時滞在施設などがバスセンター駅前の地下鉄コンコースのみである。
●**防災機能の強化**

強化の考え方

創成東地区の資源と創成川以西の活力を活かした
創造性豊かな職・住・遊環境と人にやさしく歩きたくなるまちなかをはぐくむ

■強化の考え方

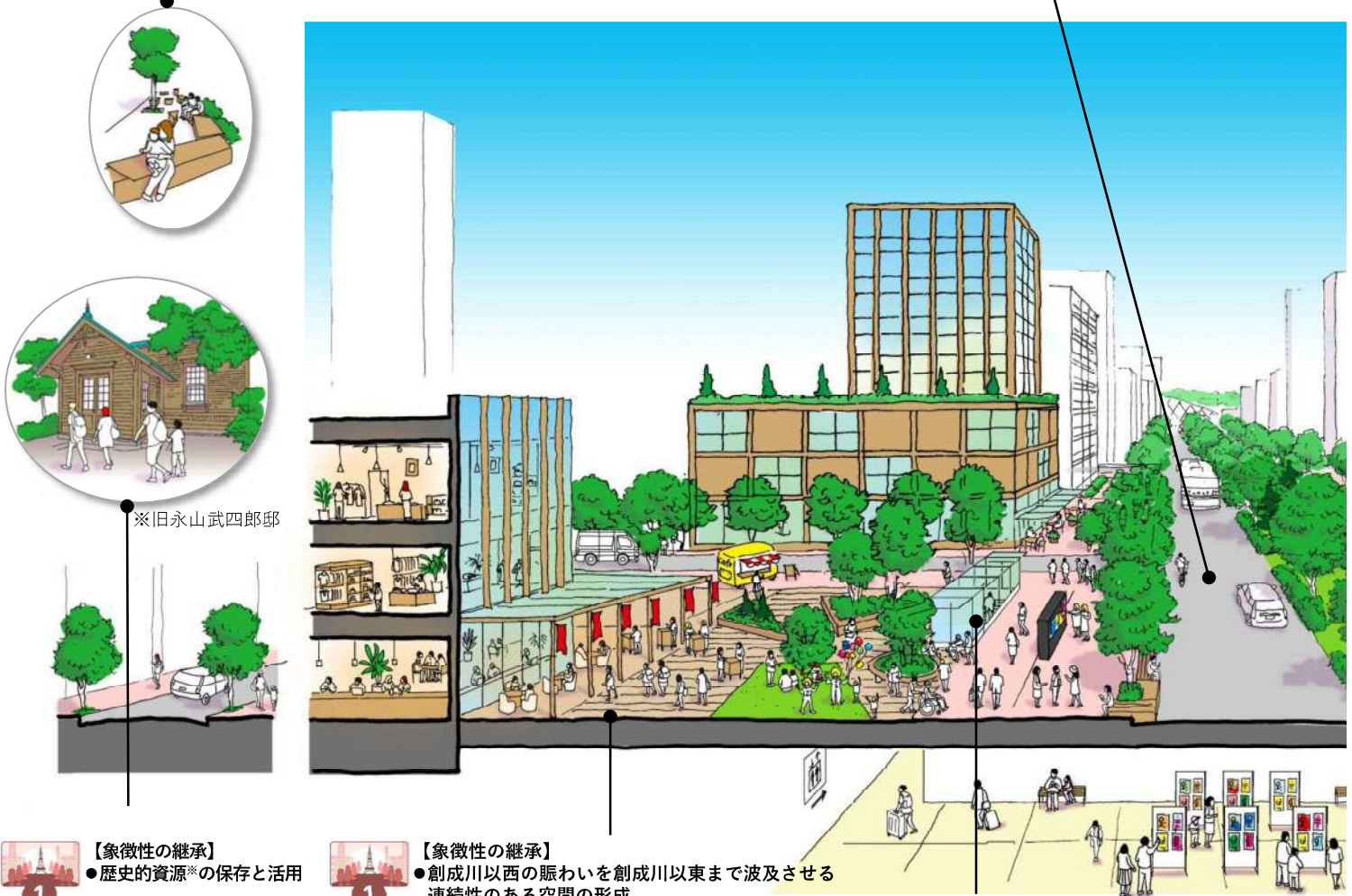
創成東地区の資源と創成川以西の活力を活かした
創造性豊かな職・住・遊環境と人にやさしく歩きたくなるまちなかをはぐくむ

■想定される主な取組例 ※ゾーン毎に想定される主な取組の一覧は55ページ以降を参照

- 4** 【協働によるまちづくり】
- 既存のエリアマネジメント団体の活動の促進
 - 低未利用地の利活用
(実証実験の場やパブリックスペースなど)

- 8** 【円滑な移動環境】
- 新幹線開業を見据えた創成川以東地域の回遊性向上を目的とした公共交通システムの検討

- 7** 【居心地がよく歩きたくなるまち】
- 道路空間の柔軟な利活用を想定した実証実験の実施



- 1** 【象徴性の継承】
- 歴史的資源[※]の保存と活用
- ※旧永山武四郎邸
及び旧三菱鉱業寮など

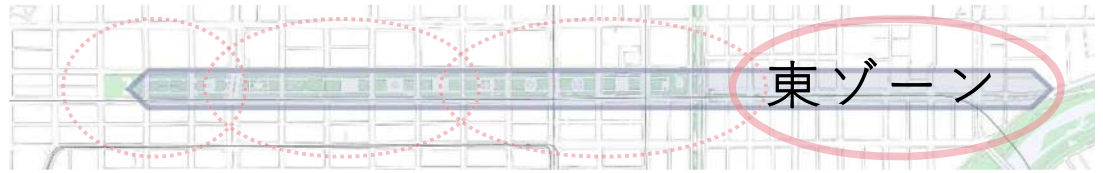
- 1** 【象徴性の継承】
- 創成川以西の賑わいを創成川以東まで波及させる連続性のある空間の形成

- 2** 【創造と交流の好循環】
- 大通公園東側を象徴する新たなオープンスペースの創出 (魅力的な働く環境としての屋外空間など)

- 3** 【魅力あるライフスタイル】
- 東ゾーンで不足する滞留や憩いのための空間としてのパブリックスペースの創出

- 5** 【ユニバーサルなまち】
- 建替等に合わせた地上と地下の往来時の利便性の向上
(地下の歩行者空間への接続箇所の新設、地上・地下出入口の建物への取込みなど)
 - 案内サイン等による利便性の向上

街区・道路の一体感を



【象徴性の継承】

- 沿道建物低層部を活用した賑わい創出
(オープンカフェや屋外テラスの配置など)
- 沿道建物から大通/大通公園までの空間を繋ぐパブリックスペースの創出や利活用
(民間開発の創意工夫による機能配置、民間開発等との連携によるみどりの創出など)



【連続的につながるみどり】

- 大通公園、創成川公園の連続したみどりを創成川以東まで波及させる連続性のある空間の創出



【心身の健康増進】

- 身体活動・運動の促進

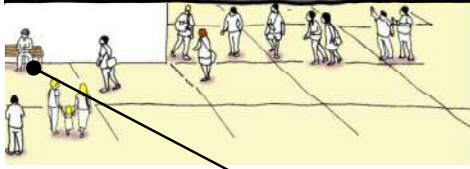
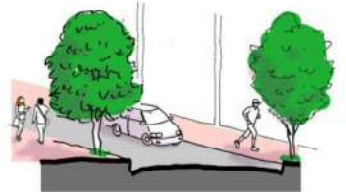


※豊平川河川敷

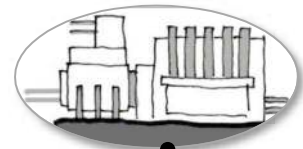


【防災機能の強化】

- 建物の耐震化の推進
- 地域主体の防災に関する取組の強化



※熱供給パイプライン



※エネルギーセンター



【居心地がよく歩きたくなるまち】

- 立ち止まって休憩が出来る場所の創出
(座って憩える快適なパブリックスペースの創出など)



【都市の脱炭素化】

- 大規模開発の機会を捉えた面的エネルギーネットワークの構築、拡充
(低炭素な熱利用の促進など)
- 各建物へのBEMS、エネルギーセンターを核としたAEMSの導入の促進
(ICTを活用した効率的な電力利用の促進など)

感じられる空間の形成

4-3. 将来像と取組の方向

ここでは、「ゾーン別の現状と課題、強化の考え方」を踏まえ、ゾーン毎に想定される主な取組例をまとめました。

I. 市民の愛着の醸成と魅力の発信



将来像①【象徴性の継承】
はぐくみの軸がもつ札幌都心の象徴性が継承されている

		ゾーン毎に想定される主な取組			
		西C	西B	西A	東
取組の方向	a	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史的資源[*]の保存と活用 ※札幌市資料館 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大通公園の在り方[*]検討 ※大通公園の再整備の検討など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史的資源[*]の保存と活用 ※札幌市時計台 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史的資源[*]の保存と活用 ※旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮など
	b	<ul style="list-style-type: none"> ● 沿道建物低層部の南北の通に面する部分へのにぎわい機能の導入 ● 周辺の資源[*]を活かした都市空間の形成 ※北海道知事公館や北海道立近代美術館などの周辺のまとまったみどり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 沿道建物低層部の南北の通に面する部分へのにぎわい機能の導入 ● 周辺の資源[*]を活かした都市空間の形成 ※北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 沿道建物低層部の南北の通に面する部分へのにぎわい機能の導入 ● 周辺の資源[*]を活かした都市空間の形成 ※札幌市時計台 	<ul style="list-style-type: none"> ● 沿道建物低層部の南北の通に面する部分へのにぎわい機能の導入 ● 周辺の資源[*]を活かした都市空間の形成 ● 創成川以西のにぎわいを創成川以東まで波及させる連続性のある空間の形成 ● 狸小路を活かした南北の回遊性の創出 ● 東4丁目の整備
	c	<ul style="list-style-type: none"> ● 大通公園・大通・沿道建物を一体的な空間として捉えられるような機能配置や運用ルールなどの仕組みの整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 沿道建物から大通/大通公園までの空間を繋ぐパブリックスペースの創出や利活用(民間開発の創意工夫による機能配置、民間開発などとの連携によるみどりの創出など) ● 大通公園の在り方[*]検討 ※大通公園・道路・民間敷地が一体となったみどりの創出、大通公園と沿道が連携したにぎわい空間の創出など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 沿道建物から大通/大通公園までの空間を繋ぐパブリックスペースの創出や利活用(民間開発の創意工夫による機能配置、民間開発などとの連携によるみどりの創出など) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 沿道建物から大通/大通公園までの空間を繋ぐパブリックスペースの創出や利活用(民間開発の創意工夫による機能配置、民間開発などとの連携によるみどりの創出など)



将来像②【創造と交流の好循環】

はぐくみの軸ならではの文化・魅力・活力を創造することで
世界から投資や人材などを呼び込む好循環が形成されている

			ゾーン毎に想定される主な取組			
			西C	西B	西A	東
取組の方向	a	公有地や低・未利用地の活用、既存の都市基盤施設・公開空地の利活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●低未利用地の利活用（実証実験の場やパブリックスペースなど） ●既存の都市基盤施設の利活用（地下鉄駅コンコースでの展示活動など） ●市有地の利活用 			
	b	地域の特性を活かして、まちの魅力を高める活動の促進や、建物の用途・機能の誘導を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●建物の更新に合わせた用途の複合化やまちの魅力を高める機能の集積 ●多様な人材の集積・交流を促すための都心居住への対応 ●既存施設※を活かした文化芸術活動の促進 ※札幌教育文化会館など ●大通公園に面した街区らしい働き方ができ、多様な人材を引き寄せる創造的なオフィス環境の整備 ●周辺の集客交流施設同士の機能的な連携 ※札幌市民交流プラザ、500m美術館など ※地下鉄コンコースなど 			
	c	大通公園の魅力をさらに高める。	<ul style="list-style-type: none"> ●大通公園の在り方※検討 ※連続化の可否を含めた議論、民間事業者と連携した公園整備手法の検討など ●大通公園、創成川公園が持つ魅力を創成川以東まで波及させる連続性のある空間の形成（西Aゾーンからの人の流れを引き込む連続的なパブリックスペースの創出など） 			



将来像③【魅力あるライフスタイル】

はぐくみの軸らしい魅力あるライフスタイルが国内外に認識されている

			ゾーン毎に想定される主な取組			
			西C	西B	西A	東
取組の方向	a	四季を通じてだれもが利用できる大通公園との一体的な利用を意識したパブリックスペースを屋内外で創出し、日常利用の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●大通公園との一体的利用を意識したパブリックスペースの創出や利活用 ●複数街区間での連携を考慮した連鎖開発による屋内外でのパブリックスペースの創出 ●東ゾーンで不足する滞留や憩いのための空間としてのパブリックスペースの創出 ●市有地を活用したパブリックスペースの創出（大通西1丁目、大通西2丁目街区など） ●集積する資源同士のつながり意識したパブリックスペースの創出（札幌市時計台、さっぽろテレビ塔、大通公園、創成川公園など） 			
	b	建物用途や設えの工夫により、大通公園やまちに開かれた空間を創出する。	<ul style="list-style-type: none"> ●沿道建物低層部へのにぎわい機能の導入（飲食店や物販店の配置など） ●沿道建物の内部の活動が見える設えの整備と使い方の工夫（ガラスを使用した壁面の透明化による開放感創出など） 			
	c	大通公園がもたらす日常の憩いとイベント開催などによるにぎわいの両立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●大通公園の在り方[※]検討 ※日常利用とイベント利用の使い分け、公園の憩い機能を発揮する、公園敷地内外の空間形成など ●イベント開催時の大通公園と周辺のパブリックスペースとの一体的な活用 ●道路空間などを活用した実証実験（イベント時の公園と道路の一体的な活用のための実証実験など） ●大通公園、創成川公園が持つ魅力を創成川以東まで波及させる連続性のある空間の形成（大通公園でのイベント時のにぎわいを引き込むパブリックスペースの創出など） 			



将来像④【協働によるまちづくり】

時代の流れに柔軟に対応した市民・企業・行政などの協働によるまちづくりが進められている

			ゾーン毎に想定される主な取組			
			西C	西B	西A	東
取組の方向	a	市民・企業・行政などの協働による実証実験を展開しながら、施策の検討を進める。	●実現させたい施策を想定した、多様な関係者が参加した実証実験の実施			
	b	市民・企業・行政などの協働による活発なまちづくり活動を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ●新たなエリアマネジメント団体組成の促進 ●地域主体のまちづくり活動の促進（地権者間のまちづくり検討支援、市民・企業と連携した緑化促進など） ●既存のエリアマネジメント団体の活動の促進 			

Ⅱ. より快適で豊かな暮らし



将来像⑤【ユニバーサルなまち】
大通公園や大通沿道の公共的空間などが
誰もが安心して利用できるユニバーサルな空間となっている

			ゾーン毎に想定される主な取組			
			西C	西B	西A	東
取組の方向	a	都市基盤施設を含むパブリックスペースや建物などのバリアフリー化、利便性・快適性の向上を進める	<ul style="list-style-type: none"> ● 建替などに合わせた、建物や移動経路のバリアフリー化 ● 利用しやすい休憩場所の創出（屋内外のパブリックスペースへのベンチの設置など） 			
			<ul style="list-style-type: none"> ● 建替などに合わせた地上と地下の往来時の利便性の向上（地下の歩行空間への接続箇所の新設、地上・地下出入口の建物への取込み など） ● 案内サインなどによる利便性の向上 			



将来像⑥【心身の健康増進】
訪れる人の心身の健康を増進させる環境が整っている

			ゾーン毎に想定される主な取組			
			西C	西B	西A	東
取組の方向	a	どの季節にも歩きやすい環境を創出し、心身の健康増進のため活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行時の障害となる部分の改良（建物や移動経路のバリアフリー化など） ● 季節を問わず通れる空間の整備（屋外のピロティ空間整備、隣接する建物間の接続などの屋内の連続的な歩行空間整備など） ● いつでも座って休むことができる場所の創出（一定間隔でのベンチの設置など） ● 身体活動・運動の促進（大通公園の四季を通じた身体活動※の場としての利活用など） 			
	b	開発や建替にあわせて、大通公園の環境を建物内部に引き込む設えや、心身の健康増進に資する機能を導入する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康増進に資する機能の導入（ランニングステーションやジムなどの機能の導入） ● 大通公園と一体感を感じられるような設えの工夫（内装の木質化、低層部ににぎわい機能の導入、屋外テラスの設置など） ● 建物の内部の活動が見える設えと使い方の工夫（屋内緑化によるみどりの連続性の創出など） 			

※「身体活動」：安静にしている状態より多くのエネルギーを消費する全ての動作のこと。



将来像⑦【居心地がよく歩きたくなるまち】
街区・道路・公園の一体感がある居心地がよく歩きたくなるまちが形成されている

			ゾーン毎に想定される主な取組			
			西C	西B	西A	東
取組の方向	a	安全・快適な歩行者動線を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行者動線と錯綜しない、集約的荷さばきのためのスペースや動線の確保 ● 歩行者の多い路線への駐車場出入口設置の抑制 ● 周辺街区と連携した歩行者動線上の放置自転車対策 			
	b	憩いやにぎわいの場としての道路空間の柔軟な利活用を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路空間の柔軟な利活用を想定した実証実験の実施 			
	c	居心地が良く、歩いていて楽しいと感じる空間形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 沿道建物低層部でのにぎわいが連続する空間の創出（飲食店や物販店などの配置など） ● 沿道建物内部の活気を感じられる設えの整備と使い方の工夫（壁面の透明化や通りに面した場所での活動など） ● 立ち止まって休憩が出来る場所の創出（座って憩える快適なパブリックスペースの創出など） ● 大通公園の在り方※の検討 <p>※公園敷地と隣接した歩道部分の活用の検討など</p>			



将来像⑧【円滑な移動環境】

東西に長いはぐくみの軸を円滑に移動することができる

		ゾーン毎に想定される主な取組			
		西C	西B	西A	東
取組の方向	a	<ul style="list-style-type: none"> ● 路上駐車対策などによる自転車が安全に通行できる空間の確保 ● 円滑な移動を阻害しない位置への駐車場出入口の設置 			
	b	<ul style="list-style-type: none"> ● 新幹線開業を見据えた創成川以東地域の回遊性向上を目的とした公共交通システムの検討 ● 周辺街区と連携した放置自転車対策の推進による歩行環境の確保 			



将来像⑨【資源を活かした景観】

歴史的資源などを活かしたはぐくみの軸ならではの景観が形成されている

		ゾーン毎に想定される主な取組			
		西C	西B	西A	東
取組の方向	a	<ul style="list-style-type: none"> ● 新築建物における大通公園や大通沿道の環境、そこでの活動に配慮した配棟の計画（壁面セットバックを用いた大通公園や歴史的資源への配慮など） ● 新築建物における街並みと調和した建物の表情線の創出（隣接建物と調和した低層部の軒高やオープンスペースの創出など） 			
	b	<ul style="list-style-type: none"> ● 街並みや歴史的資源*などと調和した建物外観デザインの工夫 ● 景観計画重点区域の取組の継続 			



将来像⑩【連続的につながるみどり】

大通公園を中心に連続的にみどりの空間が形成されている

		ゾーン毎に想定される主な取組			
		西C	西B	西A	東
取組の方向	a	<ul style="list-style-type: none"> ● 大通公園、創成川公園の連続したみどりを創成川以東まで波及させる連続性のある空間の創出 ● 周辺の既存施設など*との繋がりを意識した道路緑化の強化や新たなみどりの創出 			
	b	<ul style="list-style-type: none"> ● みどりととの繋がりを創出するための中低層部の設えの工夫 ● 大通と沿道との繋がりを強化する街路樹などのみどりの強化 ● 一体感のあるみどりを創出する民間開発や公園などとの連携 ● 道路空間などを活用した実証実験（憩いの空間創出のための実証実験など） 			

Ⅲ. 持続可能なまちづくり



将来像⑪【都市の脱炭素化】

2050年のゼロカーボン都市の実現に向けた先進的な取組が進められている

			ゾーン毎に想定される主な取組			
			西C	西B	西A	東
取組の方向	a	建物の環境性能向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域材を積極的に取り入れた建物内外装の木質化 ●札幌都心E！まち開発推進制度を通じた開発における脱炭素化の取組の促進 ●事業所における省エネルギー機器への転換 			
			<ul style="list-style-type: none"> ●大規模開発の機会を捉えた面的エネルギーネットワークの構築、拡充 		<ul style="list-style-type: none"> ●大規模開発の機会を捉えた面的エネルギーネットワークの構築、拡充（低炭素な熱利用の促進など） ●各建物へのBEMS、エネルギーセンターを核としたAEMSの導入の促進（ICTを活用した効率的な電力利用の促進など） 	



将来像⑫【防災機能の強化】

はぐくみの軸の防災機能が強化されている

			ゾーン毎に想定される主な取組			
			西C	西B	西A	東
取組の方向	a	施設の防災性向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時に活用できるパブリックスペースの創出 ●建物の耐震化の推進 			
			<ul style="list-style-type: none"> ●大規模開発の機会を捉えた面的エネルギーネットワークの構築、拡充 		<ul style="list-style-type: none"> ●大規模開発の機会を捉えた面的エネルギーネットワークの構築、拡充（強靱な熱利用の促進など） ●各建物へのBEMS、エネルギーセンターを核としたAEMSの導入促進（強靱な電力利用の促進など） 	
			<ul style="list-style-type: none"> ●大通公園の防災機能の強化 		<ul style="list-style-type: none"> ●地下街の防災性向上 	
	b	地域主体の防災の取組を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域主体の防災に関する取組の強化（防災計画の策定など） 			
				<ul style="list-style-type: none"> ●エリアマネジメント団体による防災訓練の実施 		

第5章 重点的に進める取組

この章では、第2次都心まちづくり計画で定めるはぐくみの軸の考え方や第2次まちづくり戦略ビジョンにおける都市空間形成に関する考え方、本方針策定にあたり市民の意見の把握を目的として実施したオープンハウス※において、将来像のうち「象徴性」「居心地が良く歩きたくなるまち」「みどり」に多くの共感を得たことなどを踏まえ、「重点的に推進する取組」を設定します。

※オープンハウス：多くの人が集まるイベントや施設において説明パネルを展示し、事業概要を説明しながら意見を聴取する方法。本方針の策定にあたり実施したオープンハウスの結果は資料編参照。

1. 大通・創世交流拠点における象徴的空間の創出



「はぐくみの軸」は、都心の南北を貫く都心まちづくりの骨格軸である「にぎわいの軸（駅前通）」及び「つながりの軸（創成川通）」と交差しています。第2次都心まちづくり計画では、これらの交点周辺を「大通・創世交流拠点※」として位置付け、「都心における象徴的な都市文化拠点の創出」や「骨格軸を介した東西・南北市街地の連携・結びつきの強化」などを目指して行くとしています。

「大通・創世交流拠点」は「西Aゾーン」に含まれおり、当該ゾーンでは民間主体の開発が進んでいます。さらに、札幌市時計台、さっぽろテレビ塔、大通公園、創成川公園などが集積し、札幌市役所本庁舎が立地する街区などの市有地も含まれていることから、今後もこれらの環境を活かしたまちづくりが進んでいく可能性があります。

「大通・創世交流拠点」を含む「西Aゾーン」では、周辺の環境を活かしつつ市有地の活用を検討し、民間開発と連動しながら、象徴的な都市空間を創出する取組を推進していきます。

当面の取組

- 街区間の連携を考慮した複数街区における連鎖開発
- 大通公園東側の新たな象徴空間となるオープンスペースの創出
- 大通西1丁目、大通西2丁目街区などの市有地の利活用の検討
- 札幌市時計台、さっぽろテレビ塔、大通公園、創成川公園などを活かした都市空間の形成

※大通・創世交流拠点：第2次都心まちづくり計画で定める交流拠点（新たな活動や交流を生み出し都心全体のまちづくりを先導する拠点）の一つ。「質の高い文化的なライフスタイルを支える機能・空間の形成」を展開指針とし、「都心における象徴的な都市文化拠点の創出」「札幌の顔となる大通を基軸とした多様な活動、交流の創出」「骨格軸を介した東西・南北市街地の連携・結びつきの強化」などを旨とする。

2. 大通公園を中心とした東西方向へのまちづくりの波及



大通公園の西端を含む西Cゾーンは、「都心西側の回遊拠点を形成し、美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ」ことを目指していますが、当該ゾーンのさらに西側にも北海道知事公館や北海道立近代美術館といった貴重なみどりのかたまりが見られます。そのため、「はぐくみの軸」のまちづくりの効果は「軸」の外側にも波及して行く可能性があります。

一方、創成川より東側では、大通公園から続くパブリックスペースが創成川公園で途切れていることなどから、創成川より西側の活力を東ゾーンへつなげ、さらには豊平川まで引き込んで行くことが課題となっています。

「はぐくみの軸」を強化を通じて、大通公園を中心とした東西へまちづくりの動きを波及させて行くことを目指します。

当面の取組

- 大通公園西周辺エリア※のまちづくりビジョンの策定
- 地域特性を踏まえたさっぽろ芸術文化の館跡地の利活用の検討
- 創成川以西のにぎわいを創成川以東まで波及させる連続性ある空間の形成
- 東4丁目通の整備に合わせた南北の回遊性の向上

※大通公園西周辺エリア：第2次都心まちづくり計画上の都心まちづくりのためのターゲット・エリアの一つ。

3. 道路空間の利活用の検討

近年、地域課題の解決と新たな価値の創造のため、多様な人々による交流を促進させることが重要であるといった観点から、「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」が注目されています。札幌市の最上位計画である第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンにおいても、「居心地が良く歩きやすく楽しい、多様な活動ができる・滞留したくなる空間形成の推進」が掲げられています。

さらには、「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」を実現していくための手法の一つとして、国内外において道路空間の利活用が進められています。

一方、現在の大通公園と沿道建物には一体感を感じられないという課題があります。その原因としては、大通公園沿道での路上駐車や、大通公園内の活動を沿道側の建物に取り込むといった大通公園側と沿道側の機能的な連携が十分に図られていないことなどが挙げられます。

これらの「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」や「大通公園と沿道の一体感の向上」を進めていくため、道路空間の利活用を検討していきます。必要な調査を行うほか、市民・企業・行政などの協働で実証実験などを実施し、課題や効果などを慎重に検証しながら検討を進めます。

4. 地域の取組の連鎖

現在「はぐくみの軸」では、地権者が中心となったまちづくりの動きや、まちづくり団体が進めるエリアマネジメント活動など、地域の特色を活かしたまちづくりが進められています。今後「はぐくみの軸」の将来像を実現していくためには、まちづくりに関わる市民・企業・行政などが、現在の活動に加えて本方針に沿った取組を進めて行くことが重要です。

札幌市は、引き続き市民・企業などの地域の特色を活かした取組を促進していくとともに、新たな地域の取組の醸成を図っていきます。また、本章で掲げる「重点的に進める取組」をはじめ、将来像実現のための取組を主体的かつ積極的に推進していきます。

そして、本方針に沿った取組同士が「はぐくみの軸」上で相互に関連付けられながら連鎖的に展開していくことで、将来像の実現を目指していきます。

当面の取組

- 地域主体のまちづくりの勉強会などの支援
- 地区ごとのまちづくりルール※の策定に向けた誘導、調整
- 地区ごとのまちづくりルールなどを踏まえた都市計画制度の活用
- 本方針に沿った施策の検討、推進

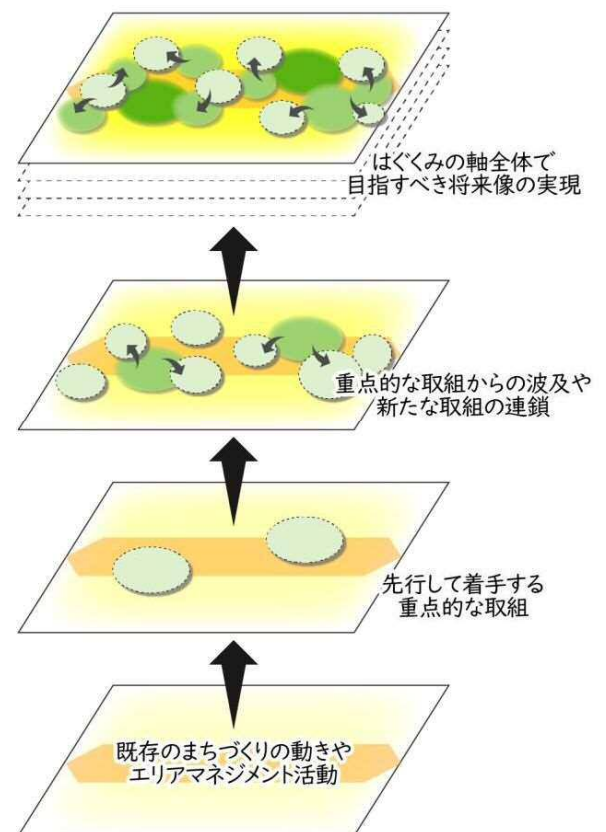
※地区ごとのまちづくりルール：札幌市が定めたエリアマネジメントを念頭に置いたまちづくりルールなど

当面の取組

- 市民・企業・行政などの協働による道路空間を活用した実証実験と必要な調査の実施
- 実証実験を踏まえた施策の検討、推進



取組の連鎖イメージ



第6章 取組の推進にあたって

この章では取組の推進にあたっての考え方を示します。

6-1. 市民・企業・行政などの協働

はぐくみの軸の将来像を実現していくためには、まちづくりにかかわる市民、企業、行政などが本方針を共有し、協働して取組を進めて行くことが重要です。

本方針に沿った取組の推進にあたっては、それぞれ以下のような役割を担って取り組んでいきます。

市民に期待される役割

- 「はぐくみの軸」に愛着を持つ
- 「はぐくみの軸」の魅力を国内外に発信する
- 将来像実現に向けた活動や議論に主体的に参加する



企業などに期待される役割

- 本方針に沿って建物の建替を計画する
- 本方針に沿って既存建物の改修を行う
- 本方針に沿って都市空間の活用を行う
- 将来像実現に向けた活動や議論に主体的に参加する

行政の役割

- その他札幌市の行政計画への本方針の考え方の反映、本方針に基づく事業構築・制度の見直しなど、率先して将来像実現に向けた取組を推進する
- 市民、企業などの活動や相互の連携を支援・調整する

6-2. 連鎖的・継続的・段階的な取組

将来像の具体化に向けては、市民、企業、行政などが、はぐくみの軸において連鎖的かつ継続的に取組を展開していくことが必要です。

また、必要に応じて、官民協働で公共的空間を活用した実証実験などを実施し、課題や効果などを慎重に検証しながら、段階的に取組を進めて行くことが必要です。

具体的な取組については、札幌市が市民、企業などの活動や相互の連携を支援・調整しつつ、実験的な手法も交えて、市民、企業、行政などの協働のもと、連鎖的・持続的・段階的に推進していきます。

1. 開催概要

① イベント名

オープンハウス

『大通沿道のまちづくりと都心のみどりづくり』

② 開催目的

- ・ 検討中の方針の概要を市民の皆様にご覧いただくこと
- ・ 来場した方にご意見をいただき方針に反映させること

③ 開催時期

・ 2022年9月11日（日）11:00～17:00
12日（月）11:00～19:00 の二日間

④ 会場

札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）内
北大通交差点広場（西）

⑤ 実施概要

検討中の方針に関するパネルを展示し、「はぐくみの軸12の将来像」については共感する項目へのシール投票を行いました。また、まちづくり等に対する意見を旗に記載して頂き、大通周辺の大判マップに置くことで、意見の内容と対象となるエリアの可視化を試みました。

※本方針との関係が深く、連携・整合を図ることとしている「都心のみどりづくり方針」に関するパネル展示・意見収集も併せて実施

⑥ 来場者数

420名（二日間合計）

■ 案内ポスター



■ 当日の様子



展示パネル

大通沿道のまちづくり方針

札幌市では、都心の重要なまちづくりの軸である「大通」に関してその沿道のまちづくりの方針を作成中です。この方針を「はぐくみの軸強化方針」と名付け、令和4年度の策定を目指しています。

今回のオープンハウスでは

- ・検討中の方針の概要を皆様にご覧いただくこと
- ・皆様にご意見をいただき方針に反映させることを目的としています。

ご意見・ご質問は、お近くのスタッフまでお気軽にお寄せください。

担当：札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室 旭 D11-211-2692

はぐくみの軸ってなに？

都心のまちづくりの重要な“骨格軸”のひとつです

「はぐくみの軸」は、大通沿道のまちづくりの重要な骨格軸として、都心のまちづくりの重要な軸として位置づけられています。この軸に沿って、まちづくりを進めていくことで、都心の魅力を高め、持続可能なまちづくりを実現していきます。

札幌市資料館から豊平川辺りまでを東西に貫くエリアを指しています

札幌の発展を支えてきた象徴的な通りです

札幌の発展を支えてきた象徴的な通りです。札幌のまちづくりの歴史を振り返ると、大通沿道のまちづくりが重要な役割を果たしてきました。

まちづくりや社会の動き

沿道に建替え時期を迎えた建物が多くあります

沿道に建替え時期を迎えた建物が多くあります。この機会に、沿道のまちづくりの方向性を示す方針を作成し、持続可能なまちづくりを実現していきます。

人口減少・少子高齢化が進みます

人口減少・少子高齢化が進みます。この変化に対応するためには、沿道のまちづくりの方向性を示す方針を作成し、持続可能なまちづくりを実現する必要があります。

まちの居心地の良さが求められています

まちの居心地の良さが求められています。沿道のまちづくりの方向性を示す方針を作成し、持続可能なまちづくりを実現する必要があります。

脱炭素の取組の推進や災害に強いまちづくりが求められています

脱炭素の取組の推進や災害に強いまちづくりが求められています。沿道のまちづくりの方向性を示す方針を作成し、持続可能なまちづくりを実現する必要があります。

今後も、まちづくりや社会の動きに対応しながら大通の魅力を活かした取組を進める必要があります

方針で目指すもの

策定の目的

- ・大通公園等の地域特性を活かした沿道のまちづくりを促進
- ・次の100年に向け札幌市民が世界に誇れる魅力と活力にあふれる札幌都心の実現

重視する視点

- 市民の愛着の醸成と魅力の発信
- より快適で豊かな暮らし
- 持続可能なまちづくり

まちづくりの理念

150年間[®]ではぐくまれてきた大通の価値を再認識し、100年先の未来を“はぐくむ”

将来像の設定と取組の方向の整理

- ・市民、事業者と共有する「12の将来像」を設定
- ・将来像を実現するための「取組の方向」を整理

はぐくみの軸12の将来像

まちづくりの方向性を示す「12の将来像」を設定し、持続可能なまちづくりを実現していきます。

- 1【象徴性】** 大通がもつ札幌都心の象徴性が継承されている
- 2【創造性】** 大通ならではの文化・魅力・活力がまちから投資や人材を呼び込んでいる
- 3【ライフスタイル】** 大通らしい魅力あるライフスタイルが国内外に認識されている
- 4【まちづくり】** 時代の流れに柔軟に対応した官民協働のまちづくりが進められている
- 5【ユニバーサル】** 大通公園や沿道の公共的空間などが全ての人が上って居心地の良い場所として親しまれている
- 6【健康的な暮らし】** 訪れる人の心の健康を促進させる環境が整っている

12の将来像に関する将来像

- 市民の愛着の醸成と魅力の発信に関する将来像
- より快適で豊かな暮らしに関する将来像
- 持続可能なまちづくりに関する将来像
- 居心地がよくなるまちに関する将来像
- 快適な交通環境に関する将来像
- 都市の景観に関する将来像
- みどりに関する将来像
- 脱炭素化に関する将来像
- 防災に関する将来像

将来像の実現に向けて

エリア特性に応じたまちづくりを進めます

東西に約2.5kmの長さを誇る大通沿道は、東西に異なるエリア特性を持っています。この特性を活かして、エリアごとにまちづくりを進めます。

市民・事業者と協働でまちづくりを進めます

市民・事業者と協働でまちづくりを進めます。市民の意見を聞き、事業者の力を借り、持続可能なまちづくりを実現していきます。

「はぐくみの軸12の将来像」の共感できる項目に投票をして頂きました。※一人3つまで結果は次のページの通りとなりました。

2. 将来像に対する意見

■「はぐくみの軸12の将来像」に対する投票結果

1日目

2日目



■得票数のまとめ

	一日目	二日目	合計	
①【象徴性】 大通がもつ札幌都心の象徴性が継承されている	62	82	144	3位
②【創造性】 大通ならではの文化・魅力・活力が育ち 世界から投資や人材を呼び込んでいる	30	36	66	
③【ライフスタイル】 大通らしい魅力あるライフスタイルが 国内外に認識されている	46	57	103	
④【まちづくり】 時代の流れに柔軟に対応した 官民協働のまちづくりが進められている	24	23	47	
⑤【ユニバーサル】 大通公園や沿道の公共的空間などが 全ての人々にとって居心地の良い場として親しまれている	66	65	131	
⑥【健康的な暮らし】 訪れる人の心身の健康を増進させる環境が整っている	30	23	53	
⑦【居心地がよく歩きたくなるまち】 大通沿道の一体的な空間を 安全・快適に楽しく回遊できる	71	99	170	1位
⑧【快適な交通環境】 東西に長い大通を快適・円滑に移動することができる	41	52	93	
⑨【都市の景観】 大通の資源を活かした はぐくみの軸ならではの景観が形成されている	39	34	73	
⑩【みどり】 大通公園を中心に 連続的にみどりの空間が形成されている	72	82	154	2位
⑪【脱炭素化】 2050年のゼロカーボン都市の実現に向けた 先進的な取組が進められている	29	22	51	
⑫【防災】 大通の防災機能が強化されている	48	43	91	

3. 寄せられた意見の一部

西Bゾーン周辺

- ✎ 沿道ビルから大通公園を眺めるスポットがほしい
- ✎ 大通公園沿道にテラスのあるレストランを作してほしい
- ✎ 道庁から大通公園までの動線を自然にしてほしい
- ✎ 体が不自由でも動きやすい環境にしてほしい
- ✎ 公園で静かに過ごせるようにイベントと棲み分けしてほしい
- ✎ イベント時公園内が通りにくいので歩道が広い方がいい
- ✎ 子供が遊べて芝生やベンチで飲食しやすい環境にしてほしい

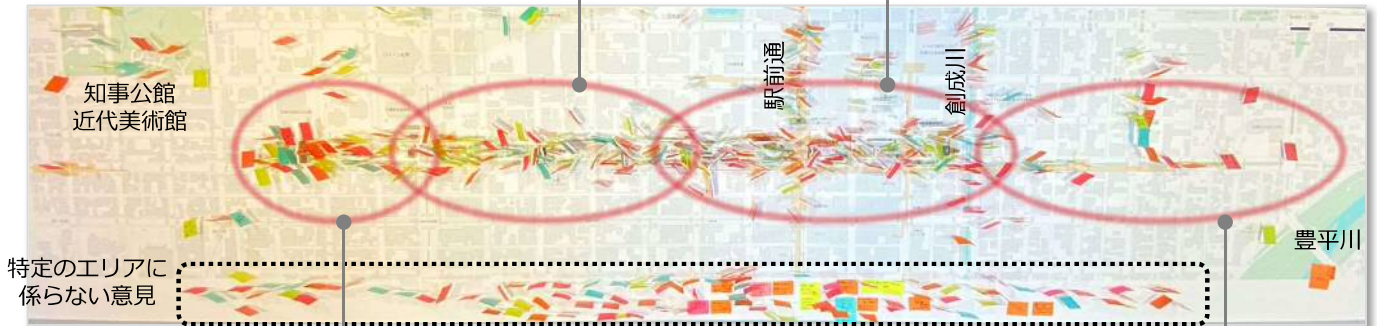
など

西Aゾーン周辺

- ✎ 地下と地上にお店がいろいろある通りがあり、それらがこれからも楽しいものであってほしい
- ✎ 時計台の周囲にもっと緑が増えてほしい
- ✎ 今あるライラックや花や緑を今後も大切にしてほしい
- ✎ エレベーターを増やしてほしい
- ✎ 東1丁目まで大通公園が広がってほしい
- ✎ 飲食や勉強・ワーク作業ができるテーブルと椅子がほしい
- ✎ イベント時に休めるところを増やしてほしい
- ✎ 大きなイベントだけでなく市民が気軽に使えるイベントもほしい

など

■オープンハウス終了時の大判マップ



西Cゾーン周辺

- ✎ お弁当を食べたり休憩できるスペースがあると良い
- ✎ 子どもたちと過ごせる空間や、街中でピクニックができるエリアがあったらいい。
- ✎ 静かな雰囲気がいよい
- ✎ バラの花壇や札幌市資料館はもっとたくさんの人に来てもらいたい。
- ✎ 札幌市資料館の窓から見る大通公園の紅葉が最高

など

東ゾーン周辺

- ✎ 歩ける空間に座れる椅子がいっぱいほしい
- ✎ 歩道橋がなくても通れるようにしてほしい
- ✎ 明るい空間にして歩きやすくしてほしい
- ✎ 地上、地下にみどころがほしい
- ✎ ファクトリーまで地下通路で繋げてほしい
- ✎ 東側にもお店を作って、東8丁目まで賑やかになり、地上を歩く人が増えてほしい

など